

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称)	
講演者	: 佐藤大介、霜山真、吉田詩織
所属	: 公立小松大学、宮城大学、東北大学
テーマ	: セルフマネジメントを高めるオンライン看護構築を目指して
担当者氏名: 佐藤 富美子 教授	所属: 東北大学大学院がん看護学分野
内線: 7926	Email: fsato@med.tohoku.ac.jp
1. 実施年月日:	
令和 3年 8月 20日	
2. 開催場所:	
ZOOM	
3. 関連分野:	
オンライン看護、遠隔看護、ICT、AI	
4. 対象者:	
一般の方々、医療従事者、学生等、どなたでも	
5. 参加人数: (お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
参加者 39名 (名簿 36+講師 3)	
6. 成果:	
<p>今回の講演会は、コロナ禍のためオンラインシステムを利用した講演会となった。講演者は、本学の博士課程の修了生であり、在籍時より遠隔看護研究を開始し、現在発展して実施している遠隔看護についてご講演いただいた。</p> <p>講演では、遠隔看護に関する概要の他、慢性呼吸不全患者に対する遠隔看護実践、がん疼痛緩和を目指した遠隔看護実践、化学療法中の患者に対する遠隔看護実践について報告があった。遠隔看護実践は、患者の苦痛早期発見を目的としているが、それぞれの研究者による発表では、継続モニタリングや教育ツールの活用により、患者のなんらかのセルフマネジメントを高める効果が報告された。</p> <p>また、遠隔看護実践に従事する看護師育成が共通の課題であり、患者個人の症状出現に対しては、AI学習によりスクリーニング可能性が報告された。今後は、全ての患者に共通したスクリーニングAIの開発が求められる。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

遠隔医療について

【定義】

- 映像を含む患者情報の伝送に基づいて遠隔地から診断、指示などの医療行為及び医療に関連した行為を行うこと
(厚生労働省遠隔医療研究会, 1996)
- 通信技術を活用した健康増進、医療、介護に資する行為
(日本遠隔医療学会, 2006)
- 通信技術を活用して離れた2地点間で行われる医療活動全体
(在宅患者への遠隔診療実施指針, 2011)

【遠隔医療の分類】

- ① 医師と医師間で行われるモデル (Doctor to Doctor: D to D)
- ② 医師と患者間で行われるモデル (Doctor to Patient: D to P)
- ③ 医師と患者の間を医師以外の医療従事者が介在するモデル (Doctor to Nurse to Patient: D to N to P)

進行がん患者を対象としたICTによる知見

- ・ IHCA : Interactive Health Communication applications
(Ruland CM, Abaidoo B, Larweh BT. et al. 2013,2014)
- ・ STAR : Symptom Tracking and Report
(Basch EM, Deal AM, Dueck AC, et al. 2016,2017)
- ・ A multimodal web application in outpatients with cancer-related pain
(Oldenmenger WH, Geerling JI, Mostovaya I, et al. 2011,1017,2018)

<プログラム内容>

患者が日々の症状をシステムに入力する
医療者から日々の症状をモニタリングされる (アラート)
患者が症状マネジメント情報をシステムから得る

<成果>

深刻な症状の早期発見による苦痛症状の軽減
救急受診率低下による受診費用の抑制
治療継続期間の延長によるQOL向上及び生存率向上



ICTによるサポートシステムによって、
在宅環境でも症状緩和が可能になる可能性がある